

商 業

1 学習指導と評価の工夫・改善

教科「商業」の学習においては、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得とともに、ビジネスの諸活動に対し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決できる資質や能力の育成を図る必要がある。

学習指導に当たっては、個別指導やグループ別指導、チーム・ティーチングなど、個々の生徒の理解力や習熟度などに応じたきめ細やかな指導を行うとともに、調査・研究、発表・討論など、ビジネスの諸活動に関する体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた指導を充実させることが大切である。

評価に当たっては、目標に準拠した評価を適切に行うため、生徒の学習の到達度を客観的に評価するための適切な評価規準を作成するとともに、ペーパーテスト、ワークシート、レポートなど様々な評価方法の中から、生徒の学習活動の場面に応じて、的確に評価できる方法を選択することが重要である。また、評価の結果によって、その後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を工夫するとともに、評価規準や評価方法について絶えず見直しを行うことが必要である。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画表の作成

ア 作成上の留意点

- 科目の目標、内容及び指導計画に基づいて、単元ごとに観点別の評価規準を設定すること。なお、次に示す評価計画表の例にある観点別の評価規準は、「おおむね満足できると判断される」状況（B）を例示したものである。
- 各単元について、学習活動における具体の評価規準を設定すること。
- 評価活動は、各単元だけでなく、各学期、年間と継続されていくものであることから、評価計画は、各単元、各学期、年間にわたって作成すること。
- 評価の手段や方法を具体的に示すこと。
- 評価活動が学期末に偏ることのないよう、評価の時期を工夫したり、学習の過程における評価を一層重視したりするなど評価の場面について工夫すること。

イ 評価計画表の例

科目名 ビジネス基礎 大単元名 経済生活とビジネス

科 目 名	ビジネス基礎
大 単 元 名	経済生活とビジネス
単 元 の 目 標	<ul style="list-style-type: none">・ 生産・流通・消費という経済の仕組みと、その担い手である家計・企業・政府の関係について理解させるとともに、企業が行う経済的諸活動の総称であるビジネスの意義や役割について、身近な事例を取り上げて理解させる。・ 我が国におけるビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス化、科学技術の進展等、経済を取り巻く環境の変化と関連させて理解させる。また、地球環境問題、エネルギー問題への対応など新たなビジネスの課題についても触れ、ビジネスの創造の重要性について理解させる。・ ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための望ましい人間関係、社会性、倫理観など豊かな人間性と主体性、自己責任の観念、独創性などの創造的な能力を身に付けることの重要性に触れ、ビジネスに対する心構えについて理解させるとともに、起業家精神や企業経営に関する理念を取り上げて、ビジネスに対する望ましい考え方について理解させる。

評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
「経済生活とビジネス」の評価規準		経済生活とビジネスのかかわりに関心を持ち、ビジネスの役割とその発展について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。同時に、ビジネスに対する心構えを身に付けようとする。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、経済社会の一員として様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用してビジネスに関する諸問題を見付けている。	ビジネスの役割やその発展及びビジネスに対する心構えについて、様々な資料を活用して把握し具体的に説明するとともに、ビジネスに対する基本的な心構えを身に付け実践する。	経済生活とビジネスのかかわりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済の仕組みやビジネスの役割とその発展及びビジネスに対する基本的な心構えを理解している。
「ビジネスの役割」、「ビジネスの発展」、「ビジネスに対する心構え」の評価規準の具体例		<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの役割に関心を持ち、生産・流通・消費という経済を支える仕組みとビジネスの意義や役割について、身近な事例を意欲的に調べたりまとめたりしようとする。 ・ビジネスの発展及び新たな課題に関心を持ち、経済を取り巻く環境の変化との関連及びそれに伴う諸課題について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。 ・ビジネスに対する心構えに関心を持ち、ビジネスの諸活動を遂行するためには豊かな人間性や創造性及び心構えが大切であることに気付き、意欲的にそれを身に付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費という経済を支える仕組みとビジネスの意義や役割について、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して経済の担い手である家計・企業・政府の関係をとらえている。 ・経済を取り巻く環境の変化とビジネスの発展について、身のまわりの経済生活を通して考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用してそれに伴う諸課題に気付いている。 ・ビジネスの諸活動を遂行するために必要な豊かな人間性や創造性及び心構えについて、様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識を活用して経済社会の一員としてビジネスに対する望ましい考え方をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費という経済を支える仕組みとビジネスの意義や役割について、様々な資料を活用して把握するとともに、身のまわりの経済生活と結び付けて具体的に説明する。 ・経済を取り巻く環境の変化とビジネスの発展について、様々な資料を活用して把握し具体的に説明するとともに、ビジネスの諸課題を見付け出す力を身に付けている。 ・ビジネスの諸活動を遂行するために必要な豊かな人間性や創造性について、様々な資料を活用して把握し具体的に説明するとともに、基本的な心構えを身に付け実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの役割に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生産・流通・消費という経済を支える仕組みとビジネスの意義や役割を理解している。 ・ビジネスの発展及び新たな課題に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済を取り巻く環境の変化との関連及び、ビジネスの創造の重要性を理解している。 ・ビジネスに対する心構えに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動を遂行するために豊かな人間性や創造性及び心構えが大切であることを理解している。
中単元	小単元	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ビジネスの発展	国際化とビジネス (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。 <p>【○自己評価票】 【○行動観察】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化に伴いビジネスの形態が変化したことによる諸課題を見付けている。 <p>【○自己評価票】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化とビジネスの発展とのかかわりについて、適切に表現することができる。 <p>【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化に対応したビジネス活動を行うために必要な知識を身に付けている。 <p>【◎小テスト】</p>
	情報化とビジネス (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。 <p>【○自己評価票】 【○行動観察】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化に伴いビジネスの形態が変化したことによる諸課題を見付けている。 <p>【○自己評価票】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化とビジネスの発展とのかかわりについて、適切に表現することができる。 <p>【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化に対応したビジネス活動を行うために必要な知識を身に付けている。 <p>【◎小テスト】</p>
	サービス経済化とビジネス (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス経済化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。 <p>【○自己評価票】 【○行動観察】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス経済化がもたらしたビジネスの諸課題を見付けている。 <p>【○自己評価票】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス経済化とビジネスの発展とのかかわりについて、適切に表現することができる。 <p>【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス経済化に対応したビジネス活動を行うために必要な知識を身に付けている。 <p>【◎小テスト】</p>
	科学技術の進展とビジネス (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。 <p>【○自己評価票】 【○行動観察】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩に伴いビジネスの形態が変化したことによる諸課題を見付けている。 <p>【○自己評価票】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩とビジネスの発展とのかかわりについて、適切に表現することができる。 <p>【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩が、ビジネスの発展に与えた影響について理解している。 <p>【◎小テスト】</p>
	ビジネスの発展がもたらした諸課題 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの発展が私たちの生活にもたらした様々な課題について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。 <p>【○自己評価票】 【○行動観察】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの発展による地球環境問題やエネルギー問題などの諸課題を見付けている。 <p>【○自己評価票】 【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの発展に伴う諸課題への取り組みについて、適切に表現することができる。 <p>【◎ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの発展が、私たちの生活に与えた影響について理解している。 <p>【◎小テスト】</p>

※ 【 】：評価方法を表す。 ◎：単元の評価の総括の資料とすることを示す。 ○：単元の評価の総括の資料としないことを示す。

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

小単元「国際化とビジネス」について、「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例を次に示す。

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への手だて
関心・意欲・態度	国際化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。	ビジネスと国際化との関係について、自分の生活の変化を例にあげてまとめることができるとともに、国際化がもたらした課題について、自分のこととして受け止め、解決に向けた方策について調べようとしている。	衣食住など、身近で具体的な商品を例に、その製造、販売などの過程を調べさせ、国際化が進んでいることを実感させるとともに、まとめさせる。また、課題に気付かせるよう助言し、解決策を考えさせる。
知識・理解	国際化に対応したビジネス活動を行うために必要な知識を身に付けている。	国際化が進展した様々な要因を理解するとともに、国際化に対応した、新たなビジネスを創造するための知識を身に付けている。	身近にある国際化について気付かせ、国際化に至った原因や今後を予想させるとともに、国際化とビジネス活動の変化の経緯を整理させる助言を行う。

イ 評価方法の具体例

(ア) 小テストによる評価方法

[具体の評価規準及び評価の観点]

- ・ 国際化に対応したビジネス活動を行うために必要な知識を身に付けている。

【知識・理解】

[評価方法]

- ・ 小テストの解答内容の点検・分析

[作問上の留意事項]

- ・ 正答すれば「おおむね満足できると判断される」状況（B）と評価できる問題（B問題）を1問、正答すれば「十分満足できると判断される」状況（A）と評価できる問題（A問題）を2問の計3問で構成している。

[評価の実際]

- ・ 「A」と評価する場合 全問正答のとき
- ・ 「C」と評価する場合 設問2、3のいずれもが誤答で、なおかつ、設問1の正答が70%に満たないとき
- ・ 「B」と評価する場合 上記以外の場合

「ビジネスの発展」小テスト []年[]組[]番 氏名[]
1 「国際化とビジネス」に関する次の文を読み設問に答えなさい。 ビジネスでは、(国際化)が進み、人・商品・資金・情報などが(国境)を越えて、自由に行き来するようになりました。 (人件費)や原材料費などの(生産コスト)が安価な外国に工場を建て、(日本)向けの製品を生産、輸出したり、日本国内に外国企業が進出したりしています。最近では、外国企業との(提携)や合併を行い、国際的なグループを形成することで(競争力)を高めようとしています。 地球規模で(生産地)や(消費地)を持つビジネスは、それぞれの国の事情や文化・慣習を理解し、相互協力や(協同)の関係を保持しながら行うことが求められています。
設問1 ()に当てはまる語句を答えなさい。(B問題)
設問2 国際的なビジネスにかかわっている企業名、具体的なビジネス活動の変化について説明しなさい。(A問題)
[回答例] 調味料の製造会社 宗教や食生活の違いなどを考慮し、消費国に現地法人を設立し、原材料や製造方法を変えるなどして、製品化し販売している。
設問3 国際的なビジネスが発展したことによる問題点を示しなさい。(A問題)
[回答例] 産業構造の変化 外国に生産工場を設けたことで、国内の中小規模の製造業の経営が困難になり、第2次産業の就業人口の割合が減少することとなった。

※ この小テストは、大単元「経済生活とビジネス」の中の小単元「国際化とビジネス」に関するものである。

(1) 自己評価票による評価方法

[具体の評価規準及び評価の観点]

- ・ 情報化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。【関心・意欲・態度】
- ・ 情報化に伴いビジネスの形態が変化したことによる諸課題を見付けている。【思考・判断】

[評価方法]

- ・ 自己評価票の記入内容の点検・分析

[評価の実際]

- ・ 設問 1、設問 3、設問 5 では、生徒自身が自分の学習を振り返ることで、自ら学ぶ意欲や自己の能力・適性を確認できるようにする。
- ・ 設問 2 では、【関心・意欲・態度】について、「ビジネスの発展に大きな役割を果たした情報化に関して、興味や疑問を持った事柄について、課題を見付け、そのことを解決しようとして意欲的に記述している」ことを評価する。
- ・ 設問 4 では、【思考・判断】について、「今後情報化が進展したときに、ビジネス活動がどのように変化するかを、これまで学んだ知識を踏まえて自己の考えを記述している」ことを評価する。
- ・ 自己評価の結果が教師の観察と大きくかけ離れる場合には、自己評価票にコメントを記し、客観的な学習の振り返り方や自己評価の意味について個別に指導し、自己評価力を高めるように指導する。

「ビジネスの発展」自己評価票 []年[]組[]番 氏名[]
* この単元の学習について、あなた自身の学習活動を振り返ってみましょう。
【情報化とビジネス】
設問 1 情報化とビジネスの関係についてわかりましたか。
4 とてもよくわかった
3 だいたいわかった
2 あまりよくわからなかった
1 ほとんどわからなかった
設問 2 情報化とビジネスの関係について、どのような事柄について興味や疑問を持ちましたか。
設問 3 情報化がビジネスを発展に果たした役割について興味を持ってましたか。
4 とても興味を持った
3 少し興味を持った
2 あまり興味を持ってなかった
1 ほとんど興味を持ってなかった
設問 4 情報化の進展により、今後ビジネス活動はどのように変わるとおもいますか。
設問 5 情報化に関するワークシートには積極的に取り組みましたか。
4 自ら進んで積極的に取り組んだ
3 与えられた課題はきちんとこなした
2 あまり積極的に取り組まないときがあった
1 ほとんど取り組まなかった

※ この自己評価票は、大単元「経済生活とビジネス」の中の小単元「情報化とビジネス」に関するものである。

(ウ) ワークシートによる評価方法

[具体的な評価規準及び評価の観点]

- ・ サービス経済化がビジネスの発展に果たした役割について意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。【関心・意欲・態度】
- ・ サービス経済化がもたらしたビジネスの諸課題を見付けている。【思考・判断】
- ・ サービス経済化とビジネスの発展とのかかわりについて、適切に表現することができる。【技能・表現】

[評価方法]

- ・ ワークシートの記入内容の点検・分析

[評価の実際]

- ・ 様々な文献やメディアを通して資料を収集し、調べ、考察する学習活動に参加する態度やワークシートの取組の様子を机間巡視しながら評価する。
- ・ ビジネスの発展に伴う諸課題の原因や対応への考え方、今後のビジネスの在り方などについて、積極的に理解し、ワークシートにまとめ上げたかを評価する。
- ・ これまでの学習内容を踏まえて、分かりやすくまとめ上げる工夫をしている場合、「十分に満足できると判断される」状況（A）と評価する。
- ・ 「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒については、頻繁に発問するなどして、授業への集中や積極的な参加を促す。また、個別指導等を通して、社会の変化とビジネスの発達との関係について、生徒自らの生活と関連させることにより、興味・関心を高めさせる指導を行う。

サービス経済化とビジネス 年 組 番・氏名	評価との関連
<p>1 サービス経済化が進展した要因と、それに関連するビジネスを調べてまとめよう。</p> <p>[回答例]</p> <p>① 労働時間の短縮や家事労働の合理化に伴う余暇の増大による、旅行やレジャー、スポーツ、健康食品関連、物品賃貸業（レンタルビデオショップ）など</p> <p>② 女性の社会進出による、外食や家事代行業、食材の配送やクリーニング業など</p> <p>③ 高齢者の増加による、介護サービスや老人ホームなど</p> <p>④ 生活スタイルの変化による、スーパーマーケットの営業時間延長や各種代行サービスなど</p> <p>⑤ 企業のコスト削減と業務の効率化による、事務用機器レンタル業、専門的知識を有する人材の派遣業、ビル管理業、各種代行業など</p>	<p>関心 ・ 意欲 ・ 態度</p>
<p>2 サービス経済化が進展した理由を考えてみよう。</p> <p>[回答例]</p> <p>日本の経済の発展に伴い社会が成熟した結果、日本人の価値観・幸福感が多様化し、物質への満足だけでなく、多様で質の高いサービスを求めるようになった。企業がこのような消費者の要望に応えるようになったことで、サービス経済化が進展した。</p>	<p>思考 ・ 判断</p>
<p>3 10年後には、どんな新しい職業が誕生しているか考えてみよう。</p> <p>(1) これから誕生すると考えられるサービス</p> <p>[回答例]</p> <p>独居老人の消費動向を把握した、コンビニエンスストアによる宅配サービス</p> <p>(2) (1)の新サービスが誕生すると考えた理由</p> <p>[回答例]</p> <p>高齢者の増加と購買方法の多様化</p>	<p>技能 ・ 表現</p>

※ このワークシートは、大単元「経済生活とビジネス」の中の小単元「サービス経済化とビジネス」に関するものである。

(3) 観点別評価の総括

ア 総括の場面

観点別学習状況については、学習活動における具体の評価規準など、個々の評価規準に照らして学習の実現状況の評価し、得られた評価結果を基に、単元全体の実現状況をまとめ、さらに学期や学年の単位で学習の実現状況をまとめていく。

したがって、観点別学習状況の評価の総括の場面としては、単元における観点ごとの評価の総括、学期末における観点ごとの評価の総括、学年末における観点ごとの評価の総括が考えられる。

イ 単元における観点ごとの評価の総括

観点別評価を総括する方法については、各学校で工夫することになるが、次に例を示す。

(ア) 「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する数が、その観点における学習活動の具体の評価規準に照らして評価した結果の半数以上であれば、（A）とする。ただし、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価する数が半数ある場合を除く。

(イ) 「努力を要すると判断される」状況（C）と評価する数が、その観点における学習活動の具体の評価規準に照らして評価した結果の半数以上であれば、（C）とする。ただし、（A）と評価する数が半数ある場合を除く。

(ウ) 上記以外及び（A）、（C）と評価する数がともに半数ある場合は（B）とする。

ウ 学期末及び学年末の評価への総括

学期末における総括については、単元ごとの評価結果をもとに行う場合のほか、単元ごとの評価結果からではなく、単元の中の「学習活動における具体の評価規準」に照らして行った評価結果から直接行う場合も考えられる。

いずれの場合も、学期末における観点別学習状況の評価を導く総括は、単元における観点ごとの評価の総括と同様の考え方で行うことができる。

学年末における総括については、単元における観点ごとの評価結果をもとに行う場合、単元の中の「学習活動における具体の評価規準」に照らして行った評価結果から直接行う場合、各学期末における評価結果をもとに行う場合が考えられる。

いずれの場合も、学年末における観点別学習状況の評価を導く総括は、単元における観点ごとの評価の総括と同様の考え方で行うことができる。

エ 観点別学習状況の評価の評定への総括

観点別学習状況の評価の評定に総括する方法については、例えば、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のそれぞれが「A、A、A、A」であれば「5」、「B、B、B、B」であれば「3」などとする方法のほか、観点ごとに重みを付ける方法など、様々な方法が考えられる。学校における指導の重点や評価方法を踏まえ、適切な方法を定めておくことが必要である。